

## 令和5年8月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和5年8月1日(火) 11時00分～12時05分  
場所 市役所2階 第1委員会室  
出席 市政記者クラブ6社 11名

### 会見内容

#### 1. 話題提供(2項目)

##### 1 姉妹都市60周年における鳥取市への訪問について

- まず、姉妹都市60周年における鳥取市への訪問についてです。
- 1963年(昭和38年)10月4日に鳥取市・湯沢市と姉妹都市提携を結んでから、本年は60周年を迎えます。これを記念する各種事業が各市において予定されております。
- この一環として、私をはじめ、市議会、「釧路鳥取傘踊り保存会」による公式訪問団25名が8月13日(日曜日)から15日(火曜日)までの日程で開催される「鳥取しゃんしゃん祭り」に合わせて鳥取市を訪問します。
- 公式訪問団として、鳥取市役所を訪問するほか、8月13日(日曜日)の「鳥取しゃんしゃんまつり前夜祭」では、同行する「釧路鳥取傘踊り保存会」の踊り手11名が、オープニングアクトとして演舞を披露する予定となっております。
- 鳥取市の夏の風物詩となっている傘踊りは、鳥取県土族が現在の釧路市鳥取地区に入植してから80年を記念して、昭和38年に、当時の鳥取市長 高田 勇氏から踊り傘が贈られ「因幡の傘踊り」が伝授されたことを契機に、この釧路でも「保存会」のほか、鳥取小学校、鳥取西小学校、鳥取中学校において郷土芸能として受け継がれ、祭りへの参加など、今日までの相互交流の柱のひとつとなっております。
- あわせて、先般実施した「姉妹都市提携60周年記念 鳥取・湯沢を知ろう!絵手紙コンテスト」で鳥取賞・湯沢賞を受賞した家族が8月にそれぞれ両市を訪問するほか、10月の「釧路大漁どんぱく」にあわせて、鳥取・湯沢両市からも市長をはじめとする訪問団が来釧する予定となっております。
- また、民間である全日本空輸株式会社の取組として、以前、釧路市の全日本空輸株式会社の支店長が、現在、鳥取市の支店長であり「お得に乗り継ぐ 鳥取釧路姉妹割」を7月15日(土曜日)から10月31日(火曜日)まで鳥取砂丘コナン空港・羽田空港・たんちよう釧路空港の往復航空券を1万円助成する事業を行っていただいています。
- 民間に協力をいただいた事業も展開されていますので、しっかりと交流促進してまいりたいと考えています。

##### 2 8月のイベントについて

- 続きまして、本日開会式が実施されます全国高等学校総合体育大会、通称インターハイについてです。
- ここ釧路では女子バレーが開催されるということで、本日開会式を行い、明日から試合がスタートいたします。
- 夏季大会は北海道全体としても36年ぶりの開催ですが、釧路では夏のインターハイは初めての開催になります。女子バレーということで多くの皆様方が楽しみに期待をしているところがございます。
- この大会は、ウインドヒルくしろスーパーアリーナと釧路町総合体育館の2つの会場で行われます。総勢1,000名以上の選手と監督が来釧され、熱戦が期待されます。北海道からは札幌と旭川の高校が参加され、選手の中には釧路出身の選手もいらっしゃいます。

ので、友人なども応援してくれると思い、大変うれしく思っています。

- 市といたしましては、各県人会のほうにお声がけをさせていただいて、皆様がまた応援に行っていたりするようなPRを行い、あわせまして、選手の皆様が練習の成果を遺憾なく発揮できるようにしっかりとサポート体制、PRを進めているところでございます。
- 続いてお祭りの話題です。
- 7月から天候にも恵まれ、順調に「厳島神社例大祭」や「霧フェスティバル」が開催され盛り上がったところです。
- いよいよ、今週4日（金曜日）から6日（日曜日）まで「第76回くしろ港まつり」が開催されます。
- 天気予報では、4日と5日が雨の予報となっており気になっているところですが、何とか天気が持つてほしいと思っています。
- 今年の港まつりは、昨年同様、「耐震・旅客ターミナル」で開催いたします。会場については、「また北大通で開催したい」というお話もありましたけれども、くしろ港まつり会の企画委員会において検討され、昨年に引き続き同会場で開催することとなりました。
- 5日（土曜日）は、「市民踊りパレード」に20団体と一般参加者含め約1,100人が参加します。また、夜行われる「大漁ばやしパレード」は、4団体、山車が8隻、約350人が参加します。6日（日曜日）の「音楽パレード」は29団体、約1,000人が参加します。この「市民踊りパレード」「大漁ばやしパレード」「音楽パレード」の3大パレードが4年ぶりに全てそろいます。
- そのほか、市民広場ステージイベントや露店が行われ、釧路のまちを彩っていただけるものと思っています。
- あわせて、8月19日（土曜日）に「第69回くしろ市民北海盆踊り」が行われます。
- こちらは、北大通の6丁目から13丁目を会場に、やぐらを建てて実施し、北大通での実施は4年ぶりになります。
- 7月31日現在の参加者数は、団体が20団体、919名、個人でも13名参加で、あわせて932名の参加となっています。飛び入り参加も大歓迎ですので、ご参加いただければと思います。
- 今回の盆踊りの日に釧路川リバーサイドエリアにおいて「ポップカルチャーフェス2023釧路スタジオ3」「くしろがわオープンテラス2023」、昨年からリバーサイドで行っている「釧路ヒアガーデン2023」の3つのイベントがお昼から夜まで開催するということですので、この期間の中にまちなかエリアに多くの賑わいをつくるためコラボしてまいります。
- 7月が終わり、8月も様々なイベントがありますので、ぜひ皆様も楽しんでいただきたいと思います。
- 最後に、ラムサール条約釧路会議30周年記念事業についてです。
- 「釧路湿原と、そこで生きる動植物たち」というテーマを掲げ、記念事業を行います。
- このイベントは長期滞在者を対象として、釧路地域への理解促進及び愛着心向上を目的に実施する「地域学習講座」の一環として、あわせて、ラムサール釧路会議開催30周年を記念して釧路湿原への関心度向上や保全活動への理解を深めることを目的に8月10日（木曜日）に実施いたします。
- 主な内容といたしましては、釧路国際ウェットランドセンターの新庄久志氏を講師に招き、貸し切りバスを使いまして温根内ビジターセンターや釧路湿原野生生物保護センターを訪問する他、猛禽類医学研究所のバックヤードツアーに参加するなど釧路湿原の環境保護と湿原に生息する動植物について学ぶことができるイベントになっています。

- ぜひこのイベントに参加いただき、釧路市の魅力をさらに感じていただければと考えています。

## 2. 質疑要旨

(質問)

- ・姉妹都市訪問について、公式訪問団が鳥取市を訪れるのが13日から15日ということですか。

(市長)

- ・そうです。私は戦災死没者慰霊式がありますので、前夜祭に参加し14日に帰釧することになりますが、訪問団はその日程になります。

(質問)

- ・鳥取市に公式訪問団が行くのは、いつ以来になりますか。

(交流推進主幹)

- ・前は2013年10月18日から20日に訪問しており、それ以来となります。

(質問)

- ・60周年の節目を迎えますが、市長として今後どのような交流、関係構築を目指すのですか。

(市長)

- ・50周年の時も掲げていましたが、歴史を踏まえた中で次の世代の子供たちにつないでいくことが、記念行事の重要性だと考えています。そこで子供たちに参加してもらう行事として学校給食で姉妹都市の特産を出すことも行ってきました。また、北海道の歴史、過去の積み重ねを大切にしていこうと考えてきました。鳥取市の場合は、環境大学があり、釧路市は環境を守っていく取り組みがありましたので、そこを深めていくことも行ってきました。

(質問)

- ・インターハイのバレーボール大会について、期間中延べ3万人という多くの方が来られる一大イベントということで、市役所では合宿誘致などに力を入れています。経済効果も含めて今後どのようなことにこの大会をつなげていきたいですか。

(市長)

- ・これまでは経済波及効果など目に見えやすい効果が重視されてきました。しかしながら、違う価値観も極めて重視されてきています。「涼しい釧路」として適地ということです。陸上では小森コーポレーションが30年間合宿をしていただいています。また、湿原マラソンの川内選手も10回目の参加になります。こういった中で、関西実業団の陸上も合宿をスタートしてきています。このように伸びてきています。亜細亜大学の野球部も今年は来ませんが、釧路だとしっかりと練習ができる環境になっています。このように適地をどのように活用しながら盛り上げていくかにつながってきます。経済波及効果ということもありますが、逆にすばらしい選手の方を迎え入れていながら、その選手の姿や活躍する姿を見たときの気持ちや選手の方が釧路の食がすばらしいと言ってくれるなどの面がありますので、そういったところにつなげていきたいと思えます。地域特性に対する愛着心やプライドなどを高めるチャンスと思い、しっかり進めていきたいと思っています。

(質問)

- ・アイスホッケーについて、クレインズがアジアリーグの資格停止処分になりました。市長としての受け止めに聞かせてください。

(市長)

- ・ひがし北海道クレインズの課題は本当に困ったと思っています。7月上旬までは、ひがし北海道クレインズのアジアリーグ参戦という形で進んでいると、アジアリーグからは伺っていましたが、7月17日にホームページでリーグ戦不参加の発表があり驚きました。そこで、7月20日に釧路市アイスホッケー連盟と釧路市が共同で対応協議会を開催しました。その前段にアジアリーグの公式発表のなかで、不適切な表現があり、選手の気持ちや地域の子供たちの気持ちを踏まえて訂正を求めました。

ひがし北海道クレインズが出場できないということで、選手たちが何とか試合をできるように、また釧路にプロのチームを残していくために、いろいろな手法を模索していこうと考えました。ひがし北海道クレインズとワイルズの間に感情的なものがある中で第3の組織を目指していくことを確認しました。何とか第2回目の対応協議会で方向性を決めていきたいと思っている中で、ひがし北海道クレインズの代表に連絡を取っていますが、連絡が取れずに困っているという実態であります。

(質問)

- ・協議会については、開幕2か月前を切った段階での開催でしたが、タイミングとして遅いと思いますが、このタイミングとなった理由はありますか。

(市長)

- ・先ほども話しました通り、7月上旬までひがし北海道クレインズが参戦するとアジアリーグから伺っていましたので、ワイルズの選手とどのようにしていくのがベースと思っていました。しかしながら17日にリーグ戦不参加と発表されましたので、20日に開催したものです。その前段からもひがし北海道クレインズとはなかなか連絡が取れない状況でしたが、もう2か月以上連絡が取れていない状況で苦慮しています。

(質問)

- ・新たな第3の組織が作られるという方向が示された中で、開幕が迫っています。市としてどのような支援や関わり方を考えていますか。

(市長)

- ・プロチームが存在していることが、地域としても大きな誇りであり願いです。日本製紙クレインズが廃部した際も市民や多くの方々力をいただきながら進めてきました。プロのチームがあることで子供たちもそこを目指していきます。アイスホッケーのメッカとして、全国の中学の大会も行っていますので、大事にしていきたいと思っています。そのうえで、会社の経営やルールの問題がありますので、どのようなことができるのか模索しているところです。基本的には来年のリーグの参戦を大前提にどのようなことができるのか相談しているところです。何とか連絡が取れるようにし、前に進めていきたいと思っています。

(質問)

- ・具体的なものはこれから決めていくということですか。

(市長)

- ・そうです。アジアリーグに訂正を求めた件は、リーグとしては個々の気持ちを考えていただきたいという意味です。感情的になることはよくないことかもしれませんが、感情的になるには様々背景があります。それを踏まえれば、あまり一方的な表現は訂正いただきたいをお願いしたところです。これからどのように進めていくのかは、クレインズの代表から連絡をいただきフラットな状況で話をしていくことが、どのようにアイスホッケーを盛り上げていくのか、またプロチームを築いていくのかについての土台に立てることだと思いますので、そこに向けて進めていければと思います。

(質問)

- ・「基本的には来年の参加を前提に」と仰られていましたが、今期については難しいという判断ですか。

(市長)

- ・一般的な話です。今の状況で様々なケースを考えなければなりません。「今年の参戦を目指します」と言っても、「どうやって」ということになります。そこに行くまでのベースが何もない中で、プロチームを残していくために、12月の申し込みを目指し、来年の参戦を頭に描きながら、今期どういったことができるのかを考えていくことが、最も適切な表現になると思っています。

(質問)

- ・仮に1年間釧路からアジアリーグに参戦できるチームが無くても、最低でも来年にはということですか。

(市長)

- ・私のイメージはそうです。今年の中でどのように間に合わせるができるのかということです。すでに発表された試合スケジュールが変わっていくことになります。選手たちが試合感を保つことは、存続の話とは別の話だと思っています。

(質問)

- ・第3のチームを作っていくにしても、クレインズの代表と連絡がつかないということは、影響は必至だと思いますが、それについてはどういうお考えですか。

(市長)

- ・様々な考え方があります。第3のチームは感情的なことがありました。一方でクレインズには愛着ということがあります。そういった中でどうできるのかについて相談していかねばなりません。私たちはアイスホッケーをどのように盛り上げるかという視点で支援をしてきました。ですから、フラットな立ち位置に来ていただきたいと思っています。

(質問)

- ・最低でも来年ということはわかりましたが、協議会の場では、今シーズンの参戦を目指すという話でした。選手たちも今シーズンの参戦を目指して行っているところであり、重要なことだと思います。改めてお聞かせいただけますか。

(市長)

- ・気持ちはわかりますが、スケジュールが決まった中でどういった手法があるのかということです。協議会の意向を無視しているのではなく、次にどのように進めていくのかということ踏まえていったときに、次期のプロチームという選択肢は間違いなく出てきます。「最悪でも」という意味合いの中で進めていかざるを得ないということも考えていかねばなりません。

(質問)

- ・手法がわからないということも、スケジュールが示されているということも、昨年でアジアリーグの申請が締め切られていることも、もちろんそうだと思います。その中で、ワイルズの選手たちが準備をしてきました。釧路市が今シーズンの参戦を目指すというときに、市長がアジアリーグに訴えたり、選手の声を聴くなど、やり方を探る方法があると思います。釧路市として何かやろうとしていることはありますか。

(市長)

- ・もちろん努力が必要だとは思いますが、結果が重視されると思っています。アイスホッケー連盟には必要でしたら立ち会うことは構いませんと伝えていきます。結果を考えていくことは必要であり、チームの構図が重視されると思っています。必要があれば何でも行っていきたいと思っていますし、1度休みがあったとしても基本はプロチームを残していくことが最優先されると思っています。あわせて、選手たちの気持ちが切れないようにしていくことが必要だと思っています。そういった中でどういったことを行っていくのかになります。アジアリーグはアイスホッケーの普及がありながら、リーグの運営もあります。立ち位置によっていろいろな見方がありますので、総合的にどう行っていくのかだと思っています。

ですからリーグの運営に関しては、現在のチーム数で様々変えてきたところであり、そのときに釧路の位置づけを考えることは別の位置であると思っていますので、難しいことであると考えています。

(質問)

- ・市長自身が選手の声を聴く機会を作ることは考えていますか。

(市長)

- ・そういった機会があることはいいと思いますが、こういったことを進めていくのかが求められていることだと思っていますので、そこを重視しています。選手たちがアイスホッケーにしっかり打ち込める環境がベースだと受け止めていますので、チームにこだわらずそういった環境をこちらで築いていけるのかだと思っています。民主党時代の事業仕分けでアイスアーナの存続も議論がありましたが、氷都くしろとしてアイスホッケーを残していきたいという声が圧倒的に多かったです。そういった気持ちが強い地域ですので、それを大切にしていきたいと思っています。ですから、選手ファーストでプロチームを残していくことを考えていきます。

(質問)

- ・第3のチームの形が決まらなると次の話ができないということですか。デッドラインとして12月に参加申請をすることになるならば、話し相手がクレインズの代表ではないと決めなければならないタイミングが来るのではないですか。

(市長)

- ・ひがし北海道クレインズが必要な話し相手として入っている状況です。リーグが始まる前には考えなければならないと思っています。協議会の中で模索しながら進んでいくものですが、近々判断が必要となりますので、それまでに連絡いただきたいと思っています。連絡がない場合は違うことを考える必要があります。

(質問)

- ・市とクレインズの包括連携協定も見直しますか。

(市長)

- ・代表と数か月も連絡が取れないことはあり得ないことだと思っています。向き合っていたかかないと前に進みません。

(質問)

- ・第3のチームやワイルズと包括連携協定を結ぶ流れは想定されていますか。

(市長)

- ・何度も言いますが、この地域にプロチームを確保していきたいと考えています。市の支援もプロチームを前提としており、プロチームを目指すということになれば今からでも支援ができます。

(質問)

- ・プロチームを目指すなら今からでも支援できるということですが、前回の記者懇談会ではプロチームが前提と仰られていました。ほぼクレインズの選手がいるワイルズに対して市が支援しているわけではないのですが、今後連盟と話をしながら支援を進めていくということですか。

(市長)

- ・釧路にはクラブチームもありますので、今までの仕組みがそうであったということです。ですから連盟も含めた話が必要であり、連盟やクラブチームと話をしながら進めていく手法はあります。

(質問)

- ・人口減少対策について、先日公表された総務省の1月1日現在の人口動態調査を見ると、

釧路市は社会減が825人、自然減が1,802人と人口減に歯止めがかかっていない状況が続いています。一方で帯広市は人口規模が同じ状況で社会増となっています。釧路市では、k-Bizの運営やUIJターンの支援をこれまでも十分行ってきていますが、市長はどのように評価をされていますか。

(市長)

- 人口減少は社会減と自然減の2つの要素となっています。自然減は日本全国どこにでもあり、地方都市は社会減という構造的な課題がある中で、何とか対応していくために雇用を軸に進めてきました。まだマイナスですが、社会減が600くらいまで下がり、今は800くらいになったところですが、成果はあったと思っています。その大きな柱の一つがk-Bizの取り組みであり、地元の会社の売り上げを増やしていただくことで1社1人でも雇用が増えれば、それが100社あれば100人従業員がいる会社を誘致するのと同じという考え方で進めており、開設から少なくとも75人の雇用増と伺っているところです。また、UIJターンを進めるとともに会社と連携した奨学金返済支援制度の取り組みを進めています。あわせて、「20歳のつどい」で地元の会社の紹介を行っており、参加企業が増えている状況です。高卒3年以内の離職率が北海道は40%以上と高い状況がありますので、20歳のつどいを活用し、商工会議所と連携して情報を出していくことで、しっかりと雇用確保を進めていければと思っています。
- また、k-Biz 澄川センター長にはk-Hack（スタートアップ人材育成事業）にも取り組んでいただいております。新たな展開で進めていただいております。
- このように雇用を軸に進めていくことが重要と思っており、成果はじわじわと出てくるものと思ひ、取り組んでいるところです。

(質問)

- 28日まで開かれた市政懇談会でも人口減や中心市街地の活性化など市民から意見が寄せられたと思います。市長が心に残ったご意見やそれをどのように政策に活かしていくのかお聞かせください。

(市長)

- 私の立場としては、1期4年で様々な事を進めていきます。しかしながら、まちづくりや市政運営はもっと長い年月を視野に入れて進めていくことが重要と思っています。私が過去の市政の中で、最も感謝することは、ラムサールの登録湿地第1号と釧路公立大学の開設です。1970年代前半の列島改造の時代に環境の取組を行った自治体としての世界の評価があります。釧路公立大学は反対の論調もある中で進めていき、1,400人の若い世代がいるということにつながりました。これらは先々の展望の中で進められてきたと思っています。今ある課題は重要ですが、先々の期待感を示していければと思っています。ですから、駅の高架は特効薬ではなく、単なる社会基盤と私は言っています。社会基盤はそれをベースとし、どのように次の展開を行っていくのかということです。このように将来展望が一番重要だと思っています。
- 昨年市政懇談会で意見をいただきました街路灯の補助金も制度を変更しました。地区会館も指定管理料を見直しました。市役所に色々と言うことで変わっていくことも期待につながっていくと思います。
- このように色々動いていくことと将来展望を示していくことで進めていきたいと考えています。